

I F R S 相対化の視点と中小企業会計の意義

－連載「現代会計時評」からの視点－

石川純治

駒澤大学会計人会新年会 2013 年 1 月 24 日、4 時 45 分～5 時 45 分

(「甲南会計会」講演 2012 年 8 月 26 日、※資料は H P に掲載)

I F R S 相対化の視点と中小企業会計の意義について、「現代会計時評」で示した 3 つの視点 (主として資料①から③) からお話しします。

1) 視点 1 : 市場・企業・社会と会計 (「現代会計時評」第 15 回 : 資料①)

I F R S と「指針」、「要領」の相対位置を示し、その基礎にある会計観の相違を吟味することで、「要領」の意義を明らかにする。

2) 視点 2 : 資本主義の多様性と I F R S (「現代会計時評」第 14 回 : 資料②)

世界経済の大きなスパンでの構造変化や資本主義経済の有り様が 1 つでないことを踏まえて、英米型世界標準の史的相対化の視点を示す。

3) 視点 3 : 「金融・開示・取引法」優位の現代会計 (「現代会計時評」第 13 回 : 資料③)

現代の会計を「経済」、「会計」、「法」の 3 つの総体的視点から捉えることで、その今日的特性と問題性を明らかにし、そのことで中小企業会計の意義を示す。

(放送大学 T V 「社会のなかの会計」第 12 回「トライアングル体制の変容」)

4) 補足 1 : 企業会計の国際化と法人税制のあり方 (「現代会計時評」第 3 回 : 資料④)

日本税理士連合会税制審議会「企業会計と法人税制のあり方について」(2010 年 3 月)での考え方について吟味する。

5) 補足 2 : 「企業会計原則」が出てこないわけ (「現代会計時評」第 1 回 : 資料⑤)

「要領」で復活した「企業会計原則」を、連結投資情報会計という現代会計のあり方のなかであらためてその位置を考える。

6) 故武田隆二先生の講義 (D V D) : 放送大学 (T V) 「現代の会計」(2008 年～2012 年)

第 12 回「トライアングル体制の変容」でのゲスト出演 (収録は 2007/11/26)

ご参考までに :

① 拙稿『「金融・開示・取引法」優位の現代会計』「企業会計」2012 年 2 月号。

※配布資料③の補足のために

② 拙著『変貌する現代会計』日本評論社、2008 年。

※第 8 回全国会計人会サミット講演 (2004 年 11 月、駒澤大学) での約束 (あとがき)

③ 被災地視察 : 7/1 宮古市 (田老地区)、8/18,19 陸前高田・気仙沼・南三陸・石巻・女川・東松島 (※辺見庸『瓦礫の中から言葉を』、堀田善衛『方丈記私記』)